

## ワンヘルス推進宣言

今日、人類の文明は、その発展過程において、環境や生態系の破壊をもたらし、人と動物との適切な距離の確保に支障を来している。そして、このことが人や家畜、ペット等に対し、野生動物が保有する病原体の感染を引き起こす要因となっている。

新型コロナウイルス感染症や新型インフルエンザ、鳥インフルエンザなど、動物に由来し、人への感染力を獲得した「人と動物の共通感染症」は世界保健機関（WHO）で確認されているものだけでも200種類以上あると言われ、こうした新しい「人と動物の共通感染症」により、これらに免疫を持たない人類は、過去にもパンデミックの危機に直面し、甚大な被害に見舞われてきた。

この事実は我々に、人の健康と動物の健康、そして環境の保全は、生態系の中で密接につながり、強く影響しあう一つのもの、すなわち「ワンヘルス」であると教えてくれるものであり、我々はこれらの健全な状態を一体的に守っていかなければならない。

2016年福岡県北九州市において、「世界獣医師会と世界医師会によるワンヘルス国際会議」が開催され、「動物と人及びこれを取り巻く環境が生態系の中で相互に連携しており、人の健康は生物多様性の中で維持できていることを踏まえ、感染症リスクの抑制を図る戦略的枠組みが必要である」とのワンヘルスに関する「マンハッタン原則」に基づき、「人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を担っている」との考えに立った「福岡宣言」が採択された。これを受けて、福岡県は、2020年度ワンヘルスの取り組みを推進するため、「福岡県ワンヘルス推進基本条例」を制定した。

この条例の理念に則り、本市は、人と動物の健康及び環境の健全性を守り、次世代に継承していくため、ワンヘルスの実践に向けた福岡県の行動計画等に連携協力するとともに、市民への周知、理解促進に努めながら、ワンヘルス実践施策を推進することをここに宣言する。

令和3年10月1日 直方市長 大塚進弘